

令和3年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

技術支援課
(普及指導室)

生育ステージ	早期：収穫終期 早植：糊熟期～収穫期 普通期：乳熟期～糊熟期
生育概況	早期：「コシヒカリ」の成熟期は平年より3日遅れた。白未熟粒が見られるが、品質・収量とも概ね平年並。 早植：「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の成熟期は、平年並～3日程度遅れる見込み。倒伏や刈り遅れ、未熟粒等による品質への影響が懸念される。 普通期：「あさひの夢」の出穂期は平年並～2日程度遅れ、成熟期も遅れる見込み。低温や曇雨天の影響で穂揃いが悪く開花も長期化したため、収穫時期の遅延や品質・収量への影響が懸念される。

1 気象経過

(前橋地方気象台の気象データ、※9月は第3半旬までのデータ、数値は平年比、参考資料参照)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月※	10月
気温	+0.6℃	+0.5℃	+0.8℃	+0.3℃	+0.4℃	-2.7℃	—
降水量	68%	71%	125%	188%	117%	63%	—
日照時間	108%	83%	99%	111%	97%	77%	—

2 生育概況

(1) 概要

ア 早期・早植栽培（6月15日以前の田植）

早期栽培「コシヒカリ」の出穂期は平年並、成熟期は平年より3日遅れた。出穂後の高温等の影響で白未熟粒等が見られるが、品質・収量とも概ね平年並である。

早植栽培の生育ステージは糊熟期～収穫期。「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の出穂期は、平年並～2日程度早まったが、6月移植ほ場ではやや遅れた。成熟期は8月中旬、9月上旬の低温・日照不足の影響で登熟が緩慢となったため、成熟期は平年並～3日程度遅れる見込みである。穂数は平年並に確保されているが、穂いもちが各地で散見されており、降雨による倒伏や、日照不足の影響による乳白粒の発生やくず米の増加が懸念される。

イ 普通期栽培（6月16日以降の田植）

生育ステージは乳熟期～糊熟期。生育前半の寡照により生育が停滞し、梅雨明け後の高温により生育の遅れは回復したが、8月中旬の低温の影響により出穂期は平年並～2日程度遅れた。また、9月上旬の低温・日照不足のため、穂揃いまでに日数を多く要し、開花も長期化した。そのため、青未熟粒の混入による品質の低下、くず米の増加、成熟

期の遅延などが懸念される。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

穂いもちが各地で平年より多い。

紋枯病が平坦部でやや多い。

内穎褐変病が早植栽培を中心に多い。

中山間地域で斑点米カメムシ類が多い。

(3) 作況ほ等の調査結果等

ア 作況ほの調査結果（表 1 参照）

県平均の出穂期は 8 月 16 日（平均比± 0 日）であった。出穂後 15 日の穂数は 378 本/㎡（同 101%）、籾数は 29,482 粒/㎡（同 99%）であった。

イ 農業技術センターの生育基本調査結果

(ア) 稲麦研究センター（6 月 24 日移植）

「ゆめまつり」の出穂期は 9 月 1 日（過去 8 カ年平均比+ 1 日）であった。

(イ) 東部地域研究センター（6 月 1 日移植）

「ゆめまつり」の出穂期は 8 月 18 日（過去 10 カ年平均比- 2 日）、穂数は 357 本/㎡（同 91%）であった。

表 1 水稲作況ほ調査結果（地域別・作期別）（ ）内は過去平均との比較

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後 40 日		出穂期 月/日	出穂後 15 日（暫定）		
		草丈 cm	茎数 本/㎡		か所	穂数 本/㎡	籾数 粒/㎡
県平均	6/ 6 (0)	61(102)	471(106)	8/16(0)	13/15	378(101)	29482(99)
中 部	6/14(-1)	63(102)	442(108)	8/22(+2)	3/ 4	365(101)	27390(91)
西 部	6/10(-1)	61(94)	465(104)	8/17(0)	3/ 4	401(107)	32212(97)
北 部	5/21(+1)	48(102)	477(96)	8/ 5(-1)	4/ 4	367(92)	26733(97)
東 部	6/ 2(+1)	64(107)	494(108)	8/13(-1)	3/ 3	381(106)	32510(113)
早期・早植	5/26(-1)	55(100)	468(97)	8/ 7(-1)	10/10	376(97)	28552(99)
普通期	6/21(0)	67(100)	466(108)	8/29(+1)	3/ 5	384(116)	32582(99)

注1) 県平均は地区面積の加重平均（出穂後 15 日調査を除く）、地区・作期別の平均は算術平均とした。

2) 移植期、出穂期欄の()内の「-」は早い、「+」は遅いを示す。

3) 早期・早植：6月15日以前の田植。普通期：6月16日以降の田植。

(4) 作柄のまとめ

各地域の作柄は、西部が「並」、中部、北部、東部が「並～やや不良」であることから、県全体では「並～やや不良」が見込まれる。

表2 地帯別作柄概況

() 内は普及指導課・地区農業指導センター

地域別	作柄	作 柄 概 況
中部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並～ やや 不良	<ul style="list-style-type: none"> ・早植栽培：糊熟期～成熟期。出穂期は平年並～3日早まったが、8月中旬・9月上旬の曇雨天・低温のため成熟期は平年並～やや遅れている。降雨の影響による倒伏が散見され(中部・渋川)、穂発芽が懸念される(中部)。 ・普通期栽培：乳熟期～糊熟期。出穂期は平年並～2日遅い。出穂期の低温・寡照の影響で穂揃い・開花が長期化したため登熟も遅れており、成熟期の遅れが懸念される。 ・病害虫は、穂いもち、紋枯病(中部・伊勢崎)、内穎褐変病(中部早植)が多い。
西部 (西部) (藤岡) (富岡)	並	<ul style="list-style-type: none"> ・早植栽培：黄熟期～成熟期。出穂期は平年より2日早まったが、8月中旬および9月上旬の低温・日照不足の影響で成熟期は平年並～3日遅れる見込み。 ・普通期栽培：乳熟期～糊熟期。8月中旬の天候不順のため出穂期は平年並～3日程度遅れ、9月上旬の天候不順の影響で穂揃い・開花に日数を要したため成熟むらが懸念される。 ・病害虫は、穂いもち、内穎褐変病(西部、富岡)、紋枯病、山間部で斑点米カメムシ類(西部)がやや多い。
北部 (吾妻) (利根) 沼田)	並～ やや 不良	<ul style="list-style-type: none"> ・早植栽培：黄熟期～成熟期。出穂期は平年並～3日早まったが、8月中旬および9月上旬の低温・日照不足の影響で成熟期は平年並～3日程度遅れると見込まれる。9月以降の降雨の影響で倒伏が散見されるため、未熟粒等の混入が懸念される。 ・病害虫は、穂いもち、内穎褐変病、斑点米カメムシ類、一部で稲こうじ病(利根)がやや多い。
東部 (東部) (桐生) (館林)	並～ やや 不良	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培(コシヒカリ)：収穫終期。コシヒカリの収穫は95%終了。出穂期は平年並、成熟期は平年より3日遅れた。高温・乾燥・強風等の影響が懸念されたが品質・収量とも概ね平年が見込まれる。 ・早植栽培：糊熟期～収穫期。出穂期は平年並～3日程度早まったが、6月移植で若干遅れた。成熟期は8月中旬および9月上旬の低温・日照不足の影響で平年並～2日程度遅れる見込み。降雨の影響で倒伏が散見される。穂数は平年並。 ・普通期栽培：乳熟期～糊熟期。出穂期は平年並～2日遅れた。穂数は概ね平年並に確保されている。 ・病害虫は、穂いもち、紋枯病、内穎褐変病(早植栽培)、一部で斑点米カメムシ類(桐生)、イナゴ類(館林)がやや多い。

3 技術対策

- (1) 落水までは間断かん水を徹底し、根の活力維持を図る。落水は出穂後30日以降を目安とし、その後、土壌が乾く場合には、必要に応じて走り水を与える。
- (2) 登熟状況を確認して適期収穫を徹底する。適期の判定は、出穂期後の積算気温、帯緑色籾歩合、籾水分などにより総合的に判断する。
- (3) 倒伏した場合は、速やかに排水し、成熟状況を見て早めに収穫する。収穫期に穂発芽等が認められる部分は可能な限り別収穫とし、品質低下を防止する。
- (4) 自脱型コンバインによる収穫作業は、籾の損傷軽減や作業能率の向上のため朝露が消えてから開始する。脱穀籾は変質しやすいため、収穫後は速やかに乾燥作業に移す。
- (5) 胴割粒などの発生を防止するため、高水分籾の急激な乾燥や過乾燥は避け、乾燥機の毎時乾減率をやや低めに設定する。
- (6) 架干し稲については、乾燥中の気象条件によっては穂発芽や胴割粒が発生することがあるため、乾燥後は速やかに脱穀する。
- (7) 調製は必要に応じてふるい目を使い分け、選別機の処理能力以上の粗玄米を流さないよ

う丁寧に行い、整粒の確保を図る。稲こうじ病や斑点米が多い場合は出荷物へ混入しないよう特に丁寧に調製し、可能であれば色彩選別機を活用する。

(8) イネ縞葉枯病の発生地域では、収穫後早めに耕起し、ひこばえを残さないようにする。

(9) 農薬等の使用状況の記帳確認を行う。

《参考資料》

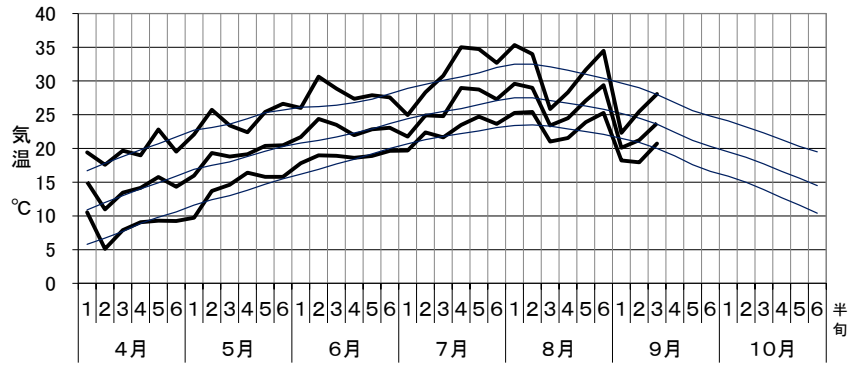


図1 気温

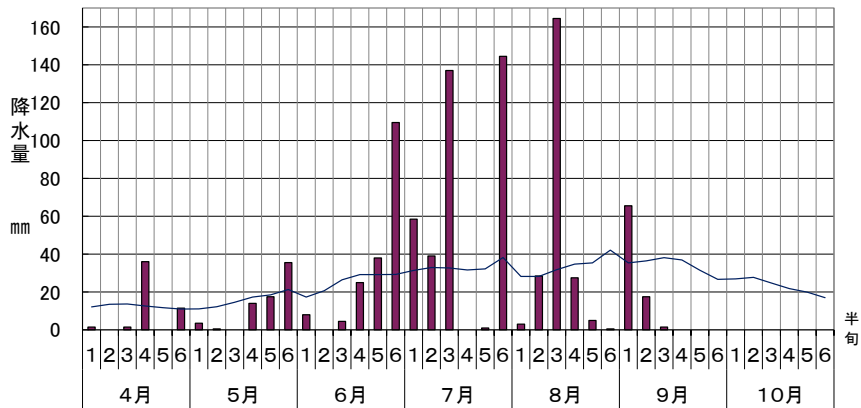


図2 降水量

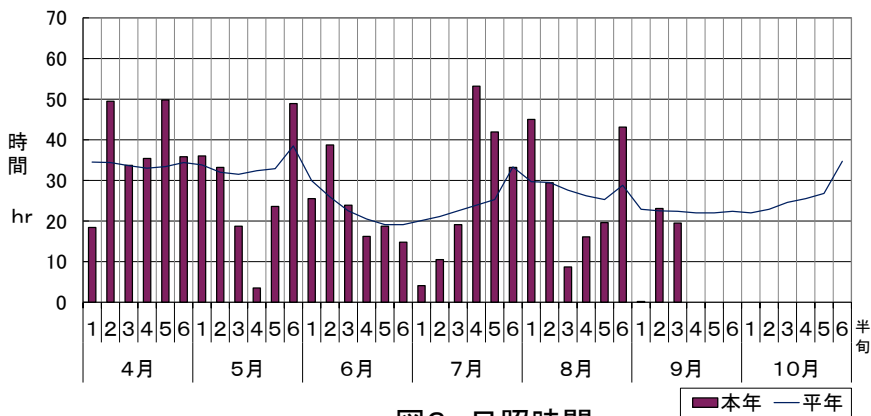


図3 日照時間